

親子ワーケーションで誘客

キャンプ・ピンン海山 初の試み3組参加

紀北町便ノ山のキャンプ・ピンン海山でこのほど、都市部の親子を対象とした2泊3日のワーケーションプランが初めて行われた。親が日中に出て、子どもがキャンプのお仕事体験や自然の中での遊びを満喫した。

同キャンプ場はかねて親子によるワーケーションを企画しており、三重県の「魅力的な観光地づく

り補助金事業」を活用し、全コテージにWiFi環境を整ったため、2月と3月に2泊3日の日程で「できワケ！親子ワーケーション」を行うことにした。

第一回は2月23～25日に、三重、大阪、愛知の親子3組が参加。保護者の仕事にはスタッフが子どもたちの面倒を見た。子どもたちは、林間オートサイトにシート1枚で

秘密基地を作り、薪（まき）づくりや、イベント準備などキャンプ場の仕事を体験。また、カヤックやカヌーに乗って銚子川を冒険して思いっきり楽しんだ。

食事はキャンプ場が提供。大人は自然の中でリフレッシュしながら集中して仕事に取り組んだ。愛知県の30代の参加者は「自然の中で集中して過ごせたり、子どもたちがコテージに帰ってくるとたくましくなっているのが分かり、とても楽しい時間が過ごせた」と語った。

担当者は「子どもたちが自然の中で成長する姿を見せてくれて、こちらも充実した3日間を過ごすことができた。参加者からも『他の人にも勧めたい』といううれしい言葉もいただいた。これからも実施していきたい」と手応えを語った。



一緒に過ごして仲良くなる子どもの参加者

不連続線

キャンプ・ピンン海山が親子を対象としたワーケーションプランを実施した。2泊3日の最終日に取材したが、子どもたちがスタッフにとても懐いていたのが印象的。終了後親にインタビューをしたところ「子どもが帰って来る度にたくましくなっているのが分かった」「すごく良かったので、他の人にも勧めたい」とかなりの評価が高かった。キャンプ・ピンン海山はかねてからワーケーションに着目しており、「WiFi」を整備したりという話も以前から聞かされてきた。これがコロナ禍でワーケーションが注目を集めた時に整備されていけば、と考えるなど少し惜しい気もするが、長年進めていた企画が好評で、今後も続けていくことは良いこと。銚子川に「奇跡の清流」というブランドの力は大きく、年間を通しての観光誘客、観光客を巻き込んだ環境保全対策とともに、より費用対効果の高いプランの確立が必要となる。例えば、銚子川でワーケーションを行った場合、清掃ボランティアなどの活動に参加すれば「奇跡の清流の保全に取り組み先進的な会社」という評価を得ることが可能になる。銚子川流域の活用は積極的に検討していきたい。 (R)